

社会教育主事講習受講者の「ふりかえり」に関する一考察

～ テキストマイニング手法を活用した概括的研究 ～

手塚 康彦

栃木県立富屋養護学校

【目次】

はじめに

第1章 社会教育主事講習の歴史と概要

第1節 社会教育主事講習のはじまり

- (1) 社会教育主事制度と歴史的背景
- (2) 社会教育主事の養成

第2節 栃木県における社会教育主事講習

- (1) 宇都宮大学での社会教育主事講習の歴史
- (2) 栃木県独自の政策「全校1人配置計画」

第2章 分析の概要

第1節 受講者（調査対象者）の基本的属性

第2節 社会教育主事講習の概要

第3節 研究の題材

- (1) ふりかえりと分析する資料について
- (2) ふりかえりシートの内容

第4節 分析方法

- (1) データの入力
- (2) データ解析の方法
- (3) テキストマイニング
- (4) データ解析の概要
 - (a) 単語ランキング
 - (b) 単語マップ
 - (c) マッピング
- (5) 解析の結果からの分析

第3章 解析結果と分析

第1節 「学んだこと気づいたこと」の分析

- (1) 単語ランキングからみた傾向
- (2) 単語マップ
 - ①「大切さ」②「地域」③「学ぶ」
- (3) マッピング
- (4) 小考察

第2節 「これから実行したいこと」の分析

- (1) 単語ランキングからみた傾向
- (2) 単語マップ
 - ①「地域」②「学校」③「積極的だ」
 - ④「学ぶ」⑤「考える」

(3) マッピング

(4) 小考察

まとめにかえて

注・参考文献等

謝辞

社会教育主事講習日程

平成14年度

平成15年度

平成18年度

平成19年度

はじめに

筆者は、2006（平成18）年度に宇都宮大学で実施された社会教育主事講習を受講した。社会教育についての予備知識がほとんどないままの軽い気持ちでの受講であったが、21日間にわたる講習を通し、社会教育、生涯学習の基礎について大いに学ぶことができた。また同時に、学校現場で生かせるような多くの手法や技能を得ることができた。さらに自分が居住する地域でのさまざまな活動に関わるきっかけにもなった。社会教育主事講習は、教員としてだけでなく大人としての考え方や生き方を変える大きな転機となったのである。

今年度、宇都宮大学生涯学習教育研究センターに内地留学する機会を得た。夏に実施された2007（平成19）年度社会教育主事講習では、企画、準備の段階から実際の運営までを見ることができた。2年連続で社会教育主事講習を体験することができ、社会教育主事講習の果たす役割や影響の大きさを感じた。

宇都宮大学で行われる社会教育主事講習は、主任講師である廣瀬隆人教授の考えにより、「ふりかえり」を重視している。講義の最後には必ずふりかえりの時間を設け、学んだことや今後の自分の在り方等についてじっくり考えることにしている。ふりかえりをするこの大切さを受講者の多くが感じ取っていたようであった。

本研究では、平成14,15,18,19年度の4回にわたって宇都宮大学を会場に行われた社会教育主事講習に着目し、最終日の「ふりかえり」の記述を題材に、テキストマイニングの手法を使って解析を行った。ふりかえりの記述の中に、受講生がどのような意識をもち、それがどのように関連しているか等を分析した。

第1章 社会教育主事講習の歴史と概要

第1節 社会教育主事講習のはじまり

(1) 社会教育主事制度と歴史的背景

社会教育主事は、社会教育法、教育公務員特例法などを根拠として、都道府県、市町村教育委員会事務局に置かれている職員である。事務職員を除く社会教育関係職員の中で唯一の必置制をとり、また唯一の「専門的教育職員」に位置づけられている職員である。

社会教育主事制度は、1920（大正9）年、当時府県レベルにおける社会教化を主に担当する役割をもって設置されたところまでさかのぼることができる。戦後は教育改革に伴う社会教育行政理念の根本的変化により、法制面で整備されるなどその装いも改められ、以後曲折を経ながらも社会教育行政の担い手として、主要な役割を果たしてきたと評せられる。

法制面では1947（昭和22）年、地方自治法施行規程に登場したのが発端である。その後1948（昭和23）年教育委員会法施行令に受け継がれた。

今日社会教育主事設置の最有力な根拠法たる社会教育法は、1949（昭和24）年の制定時から位置付けていたわけではない。1951（昭和26）年、社会教育主事関係条項が第2章として新たに加えられるかたちで実現したのである。同時に教育公務員特例法の一部改正も行われ、社会教育主事は指導主事と並び「専門的教育職員」となったのである。

しかしこの法制化は、当面都道府県レベルの社会教育主事設置を主に想定したものであった。市町村も含めた必置制が法的に規定されたのは、1959（昭和34）年の社会教育法の大改正からである。

その後法的な手直し等は実施されていないが、社会教育主事の養成に関する重要な一領域である文部省令「社会教育主事講習規程」の手直しはなされており、最終改正は2001（平成13）年8月である。

社会教育主事の職務は、社会教育法第9条の3におい

て「社会教育主事は、社会教育を行う者に専門的技術的な助言と指導を与える。但し命令監督をしてはならない」と規定されている。これが社会教育主事の職務について法の条文に示されている唯一のものである。

直接職務にかかわる「専門的技術的」内容を示したものの一例として、安原昇が、1972（昭和47）年国立社会教育研修所がまとめた調査報告書をふまえ、次の6つの領域をあげている。

- ①社会教育行政計画の立案
- ②学習計画の立案と展開
- ③学習課題の把握と社会調査の技法
- ④集団運営や団体育成の技術
- ⑤学習指導の方法や有志指導者の活用
- ⑥社会教育評価の方法

(2) 社会教育主事の養成

社会教育主事の仕事は、机上の理論よりも経験が物をいう面が大きく、その養成方式に一定の困難と限界があることは否定し難い。むしろ、任に就いてからの研修こそ重要と考えられる。だからといって養成段階不要論や軽視があつていいはずはない。少なくとも「専門的教育職員」たる資格要件は確定されていなくてはならず、その資格取得の課程が当然位置付けてくる。

社会教育法第9条の4（社会教育主事の資格）、5（社会教育主事の講習）に、その点が規定されている。

資格取得には大きく2つの道がある。1つは、大学の課程で所定の単位を取得することによって得られるもの（社会教育法第9条4の3）と、もう1つは一定の受講資格を備えた者が短期講習を受けて得られるもの（同第9条4の1、2、4）である。社会教育主事の場合、後者の講習によって資格を取得し社会教育主事になる場合が圧倒的主流を占めている。

第2節 栃木県における社会教育主事講習

(1) 宇都宮大学での社会教育主事講習の歴史

宇都宮大学では、1974（昭和49）年から、茨城大学との共催で社会教育主事講習を行っている。【表1-1】平成19年度の場合、102名のうち栃木県の実受者は79名、茨城県の実受者は23名である。

宇都宮大学で実施されていない年は茨城大学で行われており、栃木県からも毎年約20名程が受講している。

なお、平成14,15,18,19年度受講者の属性の詳細については、「第2章 分析の概要」に掲載してある。

年次	年度	講座	期日	参加人数	受講者数	修了者数	備考	
1	昭和49年	教育学部	7/16~8/23	約40	120	120	栃木 茨城	
2	昭和50年	教育学部	7/16~8/23	39	135	135	栃木 茨城 埼玉	
3	昭和51年	教育学部	7/15~8/21	38	130	130	栃木 茨城 埼玉	
4	昭和55年	教育学部	7/16~8/22	38	110	110	栃木 茨城	
5	昭和56年	教育学部	7/16~8/22	38	110	110	栃木 茨城	
6	昭和57年	教育学部	資料未発見のため不明					
7	昭和61年	教育学部	7/16~8/23	39	123	123	栃木・茨城 群馬・東京	
8	昭和62年	教育学部	7/15~8/22	39	115	115	栃木 茨城 東京	
9	昭和63年	教育学部	7/14~8/20	38	126	126	栃木 茨城 東京	
10	平成4年	教育学部	7/13~8/21	40	124	124	栃木 茨城	
11	平成5年	教育学部	7/12~8/20	40	121	121	栃木 茨城	
12	平成6年	教育学部	7/11~8/19	40	119	119	栃木 茨城	
13	平成10年	生涯学習センター	7/13~8/27	46	121	121	栃木 茨城	
14	平成11年	生涯学習センター	7/12~8/26	46	119	119	栃木 茨城	
15	平成14年	生涯学習センター	7/22~8/17	27	122	122	栃木 茨城 山形	
16	平成15年	生涯学習センター	7/21~8/13	24	121	121	栃木 茨城	
17	平成18年	生涯学習センター	7/21~8/13	24	106	106	栃木 茨城	
18	平成19年	生涯学習センター	7/18~8/10	24	102	102	栃木 茨城	
合計				2,024	2,024			

【表1-1】宇都宮大学が実施機関となった社会教育主事講習の概要
(宇都宮大学生涯学習教育研究センター調べ)

(2) 栃木県独自の政策「全校1人配置計画」

栃木県教育委員会では、1986(昭和61)年2月に策定された「とちぎ新時代創造計画＝“北関東の時代”への飛翔＝」の提言を受けて、昭和61年7月から、社会教育主事有資格者の公立学校全校配置を目標に掲げ、毎年多くの公立学校教員に講習を受講させている。

【表1-2】に示したように、平成18年度に国立大学(国立大学法人)で実施された社会教育主事講習における受講者総数789名中、宇都宮大学での受講者は106名、そのうち教育職員の普通免許状を有する者(【表1-2】中の受講資格2)の数が100名で、これは宇都宮大学受講者の約94%、全国の受講者のうち受講資格2の総数(537名)の約19%に相当することから、全校配置の取り組みが、全国的に見ても先進的なものであることがわかる。

平成18年度に栃木県総合教育センターと宇都宮大学生涯学習教育研究センターの共同研究で行われた「社会教育主事有資格教員の活動に関する調査研究」では、栃木県教育委員会の全校1人配置の取り組みの意味について、次のような考察が行われている。

- ①社会教育主事も資格取得は教員の意識改革に大きく貢献している。
- ②日々の学校教育実践を変える力を持っている。

開催大学	受講資格					合計	
	1	2	3	4	5		
北海道教育大学	修了	9	28	5	0	0	42
	部分	2	2	0	0	0	4
岩手大学	修了	21	32	4	0	0	57
	部分	0	0	0	0	0	0
東北大学	修了	9	91	4	0	0	104
	部分	0	0	0	0	0	0
宇都宮大学	修了	6	100	0	0	0	106
	部分	0	0	0	0	0	0
金沢大学	修了	13	11	9	2	0	35
	部分	1	2	0	0	0	3
愛知教育大学	修了	15	29	10	0	0	54
	部分	0	0	0	0	0	0
和歌山大学	修了	10	39	2	0	0	51
	部分	0	0	0	0	0	0
大阪大学	修了	14	7	20	0	1	42
	部分	0	0	0	0	0	0
広島大学	修了	9	38	6	0	0	53
	部分	1	3	0	0	0	4
岡山大学	修了	5	40	13	7	0	65
	部分	0	0	0	0	0	0
鳴門教育大学	修了	13	26	3	0	0	42
	部分	1	0	0	0	0	1
九州大学	修了	13	46	6	6	0	71
	部分	0	0	0	0	0	0
熊本大学	修了	3	50	2	0	0	55
	部分	0	0	0	0	0	0
合計	修了	140	537	84	15	1	777
	部分	5	7	0	0	0	12

【表1-2】平成18年度社会教育主事講習受講者数一覧

受講資格は、社会教育主事講習等規定(昭和26・6・21 文部省令第12号)の第一章第二条にある受講資格

2...教育職員の普通免許状を有する者

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
上田裕司社会教育調査官調べ

- ③社会教育に関する強い意欲を持っており、活動の場を求めている。
- ④地域の社会教育、まちづくりを支えている。
- ⑤個々の教員が持つ、特技、技能、資格、技術を地域で活用している。

これらの考察から見て、教員に社会教育主事の資格を取得させることは教育現場に多くのよい影響を与えていることがわかる。

文部科学省は、2008(平成20)年度から「学校支援地域本部(仮称)事業～地域ぐるみで学校運営を支援する体制を整備～」を実施する。4年間で全中学校区(約10,000校)に学校支援地域本部(仮称)を整備していく計画であるが、この事業を進めるにあたり学校にいる社会教育主事有資格教員の果たす役割は大きいものといえる。栃木県で行われてきた社会教育主事有資格者の「全校1人配置計画」は、全国から注目される取り組みの一つといえる。

第2章 分析の概要

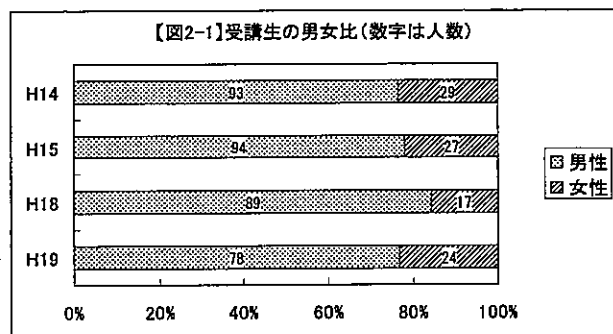
委員会から受講が認められた公立学校教員と行政職員から構成されている。その属性などを【表2-1】、【図2-1】、【図2-2】、【図2-3】に示す。

第1節 受講者（調査対象者）の基本的属性

社会教育主事講習の受講者は、栃木県と茨城県の教育

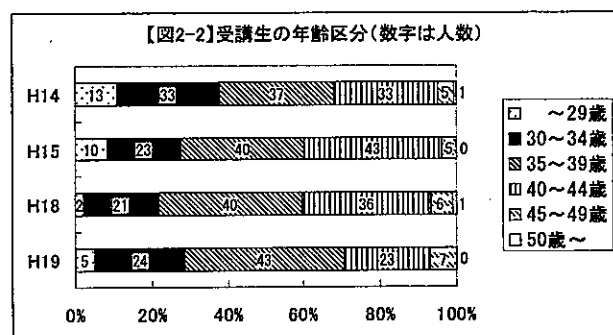
県	栃木県								茨城県								山形県
	H14		H15		H18		H19		H14		H15		H18		H19		
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
男女別合計	62	26	60	23	66	12	62	17	30	3	34	4	23	5	16	7	
合計	88		83		78		79		33		38		28		23		
年齢区分	～29	8	3	2	3	1	1	3	2		4	1			2		
	30～34	21	7	14	6	16	2	15	7	4	3		3		1	1	
	35～39	17	7	24	7	19	4	24	5	13	8	1	15	2	8	6	
	40～44	14	7	18	5	25	4	14	4	10	2	19	1	5	2	5	
	45～49	2	1	2	2	4	1	6	1	1	1		1		1		
	50～		1			1				0	0						
所属種類	小学校	27	10	26	10	35	8	32	10	11	1	14	1	10	2	8	5
	中学校	17	6	19	4	14	3	14	3	9	1	10		10	1	4	
	高校	2	3	5	2	5		6	1	3		2		2	1		2
	特別支援	3	2	1	3	5		4	2			1	1	1		1	
	幼稚園	1															
	行政	12	5	9	4	7	1	6	1	7	1	7	2		1	3	

【表2-1】社会教育主事講習受講者数と属性（宇都宮大学生涯学習教育センター調べ）



第2節 社会教育主事講習の概要

本研究は、宇都宮大学を会場として平成14,15,18,19年度に行われた社会教育主事講習を対象として行われており、いずれの主任講師も廣瀬隆人教授である。しかし、その年によって講義の場所や宿泊研修の場所、講義の配置などが若干異なる。巻末（PP.26-33）にそれぞれの年の日程表を載せた。

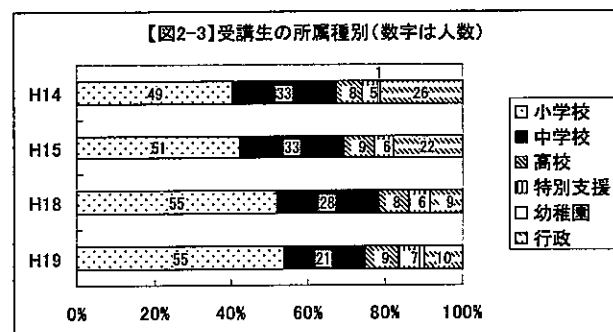


第3節 研究の題材

（1）ふりかえりと分析する資料について

宇都宮大学開催の社会教育主事講習において、平成14年度から主任講師を務める廣瀬隆人教授は講習の中で、「成人の学習者は気づきとふりかえりが大切である」と繰り返し述べており、講義の最後には、必ずふりかえりの時間を設けている。

節目となる日には、自分の今の心境をふりかえらせて、カードに記入させている。最終日には「ふりかえりシート」の記入を行っている。A4用紙1枚に学んだことやこれから実行したいことなどの10項目を記入するものである。（【図2-4】、【図2-5】）



本研究では、このふりかえりシート451枚（平成14年度122名、平成15年度121名、平成18年度106名、平成19

年度102名）を題材とし、分析を行った。

【図2-4】平成14,15,18年度ふりかえりシート

平成18社会教育主事講習ふりかえりシート 2006.8.13

質問()	氏名()	所属・職種
★私が学んだことは	生活学習の大切さです。	職場に戻ってしたいことは 机の上を片付けたいです。
●私が気づいたことは	元の場所(地区)の を知らしめます。	●私がこれから実行しようと思うことは 社会教育という観点 からものごとを見よう
◆私が驚いたことは	21日間、生活学習が 先生に教わることが あるのは初めてです。 おもしろいと思いました。	◆職場の仲間には知らせたいことは 市大での社会教育主事 講習は、おもしろい ことです。
■私が嬉しかったのは	無事に提出物を 終わらせることが できたことです。 最終日も生活学習が おもしろいと思いました。	■グループの仲間には言いたいことは、 最後まで見送って くださってくださり、 ありがとうございました。
○私が感動したことは	講習の発表に一致感 を感じました。	○主催者に言いたいことは 受講生の負担をもっと 減らして欲しいです。 ありがとうございました。

【図2-5】平成19年度ふりかえりシート

社会教育主事講習2007 ふりかえりシート

質問()	氏名()	所属・職種
★私が学んだ5つのことは	① 仕事も具体的に考えること ② 出来ないことの言いわけを できないこと、受け止めること ③ その中にはいろいろな考え方の ④ 仲間への大切さ ⑤ コミュニケーションの大切さ	★今後の新たな自分への5つの指針 ① 仕事をボツボツに考える ② もっと地域に目を向けるようになる ③ 自分は何が得意なのかということ を明確にする。 ④ 命を以上一人一命を大切にす ⑤
●私が気づいたことは	言葉も大切だが、多くの仲間と 出会えたこと。	●職場の仲間には知らせたいことは ・もっと地域との協働を 深めていくことの重要性 ・学校(教師)があの大将で あるのが良かったこと。
◆私が驚いたことは	地域には「普通の」想像と比べると 全然違う、と感動している人が たくさんいること。	◆「ツカえる」と思った知識や技術、言葉 問題は、自分の中に 「ツカえる」という、言葉 は、自分の中に「ツカえる」 知識を学ぶ、具体的な ・コミュニケーションの知識
■私が嬉しかったのは	体調を崩していたけれど、グループの みんなの優しい声かけ	■職場にもどつてみたいことは ・今回の講習やマメな対応も みんなのおかげで、授業も 子供たちも、進んでいる。 ・平日の活動しているグループが グループを見てみたい。
○私が感動したことは	21日間、無事、そして楽しく活動 できたのも、みんなのおかげで おもしろいと思います。byor びありがとうございました。これを機会に もっと活動していきたいです。	○実施運営者に言いたいことは 受講者以上に準備運営が 大変かと思いますが、とても 心遣い、充実した講習になり ました。ありがとうございました。

(2) ふりかえりシートの内容

【表2-2】に質問項目をまとめた。平成14,15,18年度と

平成19年度では質問項目や順番が異なるため、【表2-3】
のようにまとめて分析することにした。

【表2-2】ふりかえりシートの質問項目

平成14,15,18年度	平成19年度
A 私が学んだことは	a 私が学んだ5つのことは
B 職場に戻ってしたいことは	b 今後の新たな自分への5つの指針
C 私が気づいたことは	c 私が嬉しかったことは
D 私がこれから実行しようと思うことは	d 職場の仲間には知らせたいことは
E 私が驚いたことは	e 私が感動したことは
F 職場の仲間には知らせたいことは	f 「ツカえる」と思った知識や技術、言葉
G 私が嬉しかったのは	g 私が感動したことは
H グループの仲間には言いたいことは	h 職場に戻ってしたいことは
I 私が感動したことは	i グループの仲間には言いたいことは
J 主催者に言いたいことは	j 実施運営者に言いたいことは

【表2-3】本分析での分け方

平成14, 15, 18年度	平成19年度
A 私が学んだことは C 私が気づいたことは	a 私が学んだ5つのことは
本分析では、「私が学んだこと気づいたこと」	
B 職場に戻ってしたいことは D 私がこれから実行しようと思うことは	b 今後の新たな自分への5つの指針 h 職場に戻ってしたいことは
本分析では、「私がこれから実行しようと思うこと」	

本分析では、「私が学んだこと気づいたこと」、「私がこれから実行しようと思うこと」の2つについて行っていく。

第4節 分析方法

(1) データの入力

社会教育主事講習で得られたふりかえりシートは、本年度前期内地留学生海老澤康雄氏と吉原雄一氏、科目等履修生で一昨年度後期内地留学生の大林浩氏の協力で、全てコンピュータ（Microsoft Excel）に入力をした。

(2) データ解析の方法

入力したデータは、宇都宮大学生涯学習教育研究センター研究室のコンピュータにあるコンピュータソフトウェア“TRUE TELLER” Ver.5.5 ((株)野村総合研究所)を使って解析を行った。【図2-6】

“TRUE TELLER”は、本来企業などのマーケティング解析などに使用されるソフトウェアで、問い合わせやクレームの内容など、データベースに蓄積された消費者の生の声（膨大な自然文のテキストデータ）を分析するものである。

今回、分析に使用したデータは、文章数にして8,592、総単語数21,258（名詞12,131、形容詞2,607、動詞6,520）にもよる膨大なものであった。そのため、解析の効率化を図るためこのソフトウェアを使用した。

(3) テキストマイニング

テキストマイニングとは、テキスト（文章）をマイニング（発掘）すること、つまり定型化されていない文章の集まりの中から価値ある情報を掘り出すといった意味が込められている。その際に、自然言語解析の手法を用いて単語やフレーズに分割された言葉を、出現頻度や相関関係などから有用な情報を抽出するシステムとなっている。

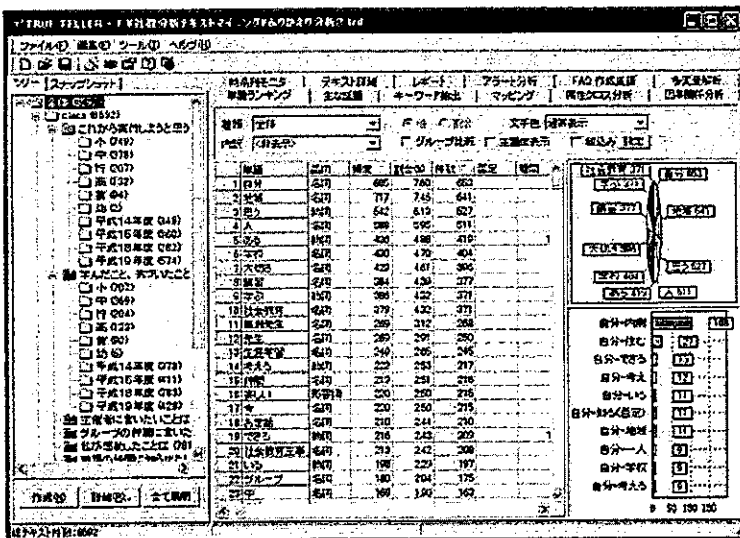
文章や言葉は曖昧なため、いくら性能の優れたテキストマイニング・ソフトであっても、完璧な解析とはならない。したがって、随所で人間の判断が必要となり、そのため一定のルールのもとに、同様の意味をもつ言葉は同義語としてカウントさせたり、指示語等それ自体意味をもたない言葉は削除していることを予め断っておく。

(4) データ解析の概要

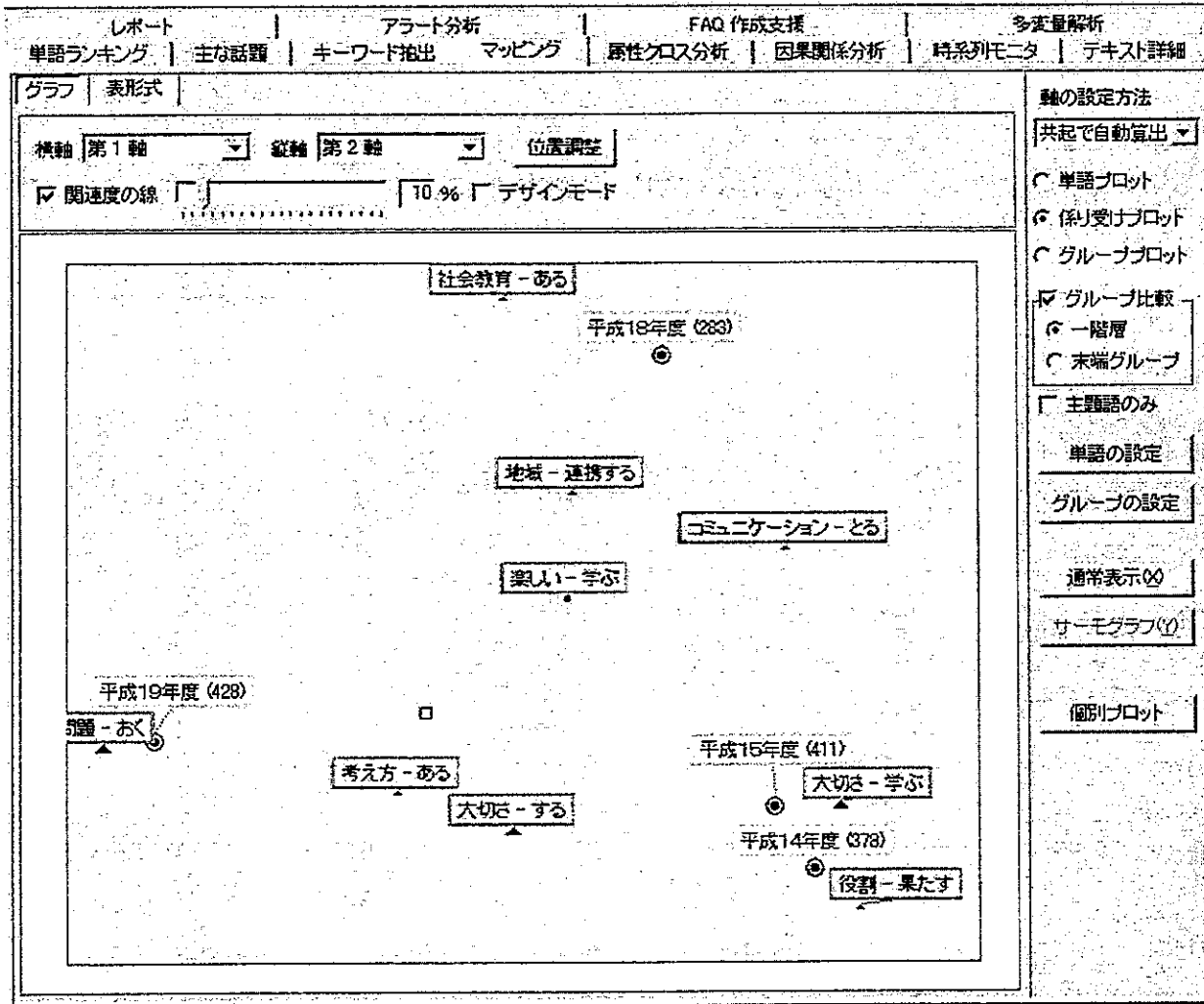
入力したふりかえりシートのデータは、“TRUE TELLER”で解析を行い、その機能の中の「単語ランキング」「単語マップ」「マッピング」を使って分析を行った。

(a) 単語ランキング

単語ランキングとは、テキストの中で使用されている単語について、出現頻度の高い順にランク付けを行う機能である。その結果を把握することで、話題についての全体的な傾向を掴むことができる。【図2-7】



【図2-6】 TRUE TELLERの操作画面（例）



【図2-9】 マッピング (係り受け) の画面 (例)

第3章 解析結果と分析

第1節 「学んだこと気づいたこと」の分析

(1) 単語ランキングからみた傾向

文章を解析して抽出された名詞、形容詞、動詞それぞれのうち、意味を持たない単語を削除した上で、上位20位までを載せたものが【表3-1-1】【表3-1-2】【表3-1-3】である。表中の割合(%)は、グループ内でその単語を含む文章数の割合を表し、件数はその単語を含む文章数を表している。

年度ごとにランキングを見てみると、名詞では、「大切さ」が圧倒的に多く見られる。他に平成14,15,18,19年度すべてで上位に出てくるものとして、「社会教育」「地域」「自分」「生涯学習」などが挙げられる。平成14年度では少なかった「コミュニケーション」「連携」は平成15,18,19年度には増加している。逆に平成14年度に多

かった「ネットワーク」は減少している。受講年度によって講義内容が若干異なったり、演習の成果が異なることが数値となって出てきているようである。

形容詞では、「必要だ」「楽しい」が上位にランクされた。「必要だ」では、「〇〇が必要だ」「社会教育主事に必要なことは…」等、「楽しい」では、「学ぶ楽しさを…」「協力すると楽しく学習できる」等の文章が見られる。

動詞では、「学ぶ」「ある」「思う」「考える」が上位にランクされた。「学ぶ」では、「〇〇について学んだ」「行政、学校、地域が共に学んで…」等、「考える」では、「協働という視点で考えることが…」「地域の人間と考えた場合…」等の文章が見られる。

	全体	割合(%)	件数	平成14年度	割合(%)	件数	平成15年度	割合(%)	件数	平成18年度	割合(%)	件数	平成19年度	割合(%)	件数
1	大切さ	15.13	227	生涯学習	14.55	55	大切さ	15.33	63	大切さ	18.02	51	大切さ	13.79	59
2	社会教育	12.00	180	大切さ	14.29	54	自分	12.17	50	社会教育	15.19	43	地域	13.79	59
3	地域	10.53	158	社会教育主事	13.23	50	地域	11.19	46	人	11.66	33	社会教育	11.45	49
4	自分	10.27	154	社会教育	12.70	48	社会教育	9.73	40	地域	10.95	31	人	9.58	41
5	生涯学習	9.20	138	自分	9.26	35	人	8.03	33	自分	10.60	30	自分	9.11	39
6	人	9.00	135	人	7.41	28	社会教育主事	7.79	32	生涯学習	8.83	25	学校	8.64	37
7	社会教育主事	8.13	122	今	6.88	26	生涯学習	7.79	32	学校	7.07	20	生涯学習	6.07	26
8	学校	7.13	107	仕事	6.08	23	学校	7.30	30	コミュニケーション	6.01	17	連携	6.07	26
9	コミュニケーション	4.13	62	地域	5.82	22	社会	6.57	27	社会教育主事	6.01	17	問題	5.84	25
10	社会	3.80	57	学校	5.29	20	コミュニケーション	4.87	20	教育	4.95	14	コミュニケーション	5.61	24
11	教育	3.67	55	学校教育	4.76	18	人づくり	4.38	18	役割	4.59	13	社会教育主事	5.37	23
12	役割	3.47	52	ネットワーク	4.50	17	まちづくり	4.14	17	今	4.24	12	内側	5.37	23
13	今	3.40	51	教育	4.23	16	教育	4.14	17	学び	3.89	11	役割	4.44	19
14	仕事	3.07	46	中	3.97	15	考え方	3.41	14	社会	3.89	11	学習	4.21	18
15	子ども	3.00	45	重要性	3.44	13	大人	3.41	14	グループ	3.53	10	子ども	3.97	17
16	重要性	2.87	43	学習	3.17	12	中	3.16	13	つながり	3.53	10	教育力	3.50	15
17	大人	2.80	42	役割	2.91	11	今	2.92	12	まちづくり	3.53	10	大人	3.27	14
18	連携	2.80	42	考え方	2.12	8	子ども	2.68	11	仕事	3.53	10	つながり	3.04	13
19	まちづくり	2.73	41	子ども	2.12	8	視野	2.43	10	一人	3.18	9	学校支援ボランティア	3.04	13
20	学習	2.60	39	視野	2.12	8	人間	2.43	10	子ども	3.18	9	協働	3.04	13

【表3-1-1】「学んだこと気づいたこと」単語ランキング (名詞)

	全体	割合(%)	件数	平成14年度	割合(%)	件数	平成15年度	割合(%)	件数	平成18年度	割合(%)	件数	平成19年度	割合(%)	件数
1	必要だ	2.00	30	多い	2.91	11	必要だ	3.16	13	すばらしい	2.47	7	仲良く	4.21	18
2	楽しい	1.80	27	必要だ	2.91	11	大きい	2.92	12	よい	2.47	7	楽しい	1.64	7
3	多い	1.53	23	大変だ	2.12	8	狭い	2.19	9	楽しい	2.47	7	必要だ	1.17	5
4	大きい	1.27	19	楽しい	1.59	6	楽しい	1.70	7	様々だ	2.12	6	ない	0.93	4
5	仲良く	1.20	18	重要だ	1.59	6	大変だ	1.46	6	ない	1.77	5	具体的だ	0.70	3
6	重要だ	1.13	17	全て	1.59	6	広い	1.22	5	多い	1.77	5	好きだ	0.70	3
7	ない	1.07	16	大きい	1.32	5	重要だ	1.22	5	おもしろい	1.41	4	対等だ	0.70	3
8	様々だ	1.00	15	せまい	1.06	4	多い	1.22	5	重要だ	1.41	4	いい	0.47	2
9	よい	0.93	14	ない	1.06	4	様々だ	1.22	5	いい	1.06	3	いろいろだ	0.47	2
10	狭い	0.93	14	広い	1.06	4	いろいろだ	0.97	4	うまい	1.06	3	すばらしい	0.47	2
11	大変だ	0.93	14	うまい	0.79	3	よい	0.97	4	狭い	1.06	3	よい	0.47	2
12	全て	0.87	13	つらい	0.79	3	全て	0.97	4	難しい	1.06	3	一方的だ	0.47	2
13	すばらしい	0.80	12	固い	0.79	3	うまい	0.73	3	いろいろだ	0.71	2	危うい	0.47	2
14	広い	0.80	12	総合的だ	0.79	3	おもしろい	0.73	3	つまらない	0.71	2	広い	0.47	2
15	いろいろだ	0.67	10	明るい	0.79	3	ない	0.73	3	むずかしい	0.71	2	重要だ	0.47	2
16	うまい	0.67	10	いい	0.53	2	よりよい	0.73	3	よりよい	0.71	2	全て	0.47	2
17	いい	0.60	9	いろいろだ	0.53	2	難しい	0.73	3	下手だ	0.71	2	多い	0.47	2
18	おもしろい	0.60	9	どのようだ	0.53	2	いい	0.49	2	何だ	0.71	2	大事だ	0.47	2
19	難しい	0.60	9	もう一度	0.53	2	しっかり	0.49	2	強い	0.71	2	様々だ	0.47	2
20	せまい	0.40	6	何か	0.53	2	すばらしい	0.49	2	幸せだ	0.71	2	うまい	0.23	1

【表3-1-2】「学んだこと気づいたこと」単語ランキング (形容詞)

	全体	割合(%)	件数	平成14年度	割合(%)	件数	平成15年度	割合(%)	件数	平成18年度	割合(%)	件数	平成19年度	割合(%)	件数
1	学ぶ	7.67	115	学ぶ	9.52	36	ある	8.27	34	学ぶ	9.19	26	ある	7.01	30
2	ある	7.40	111	ある	6.35	24	学ぶ	8.27	34	ある	8.13	23	学ぶ	4.44	19
3	思う	4.33	65	思う	6.35	24	思う	5.60	23	思う	4.59	13	置く	4.21	18
4	考える	3.27	49	考える	4.23	16	考える	3.89	16	考える	3.89	11	作る	2.57	11
5	気づく	2.47	37	気づく	3.17	12	気づく	3.16	13	できる	3.53	10	いる	2.34	10
6	作る	2.27	34	作る	3.17	12	作る	2.19	9	つながる	2.47	7	持つ	2.10	9
7	いる	2.07	31	いる	2.65	10	変わる	2.19	9	気づく	2.47	7	する	1.87	8
8	持つ	2.07	31	言う	2.38	9	理解する	1.95	8	聞く	2.47	7	おく	1.40	6
9	できる	1.67	25	持つ	2.38	9	できる	1.70	7	感じる	2.12	6	考える	1.40	6
10	する	1.60	24	知る(否定)	2.38	9	持つ	1.70	7	持つ	2.12	6	気づく	1.17	5
11	分かる	1.47	22	分かる	2.38	9	住む	1.70	7	知る(否定)	2.12	6	見る	1.17	5
12	聞く	1.47	22	する	2.12	8	知る	1.70	7	分かる	2.12	6	思う	1.17	5
13	知る(否定)	1.27	19	いう	1.59	6	いる	1.46	6	いる	1.77	5	連携する	1.17	5
14	置く	1.27	19	感じる	1.59	6	関わる	1.46	6	やる	1.77	5	いう	0.93	4
15	変わる	1.27	19	聞く	1.59	6	分かる	1.46	6	楽しむ	1.41	4	つながる	0.93	4
16	やる	1.13	17	使う	1.32	5	する	1.22	5	教える	1.41	4	できる	0.93	4
17	感じる	1.13	17	知る	1.32	5	つながる	1.22	5	考える(否定)	1.41	4	ふり返る	0.93	4
18	見る	1.13	17	できる	1.06	4	とらえる	1.22	5	充実する	1.41	4	やる	0.93	4
19	つながる	1.07	16	果たす	1.06	4	まとめる	1.22	5	生かす	1.41	4	協力する	0.93	4
20	言う	1.07	16	見る	1.06	4	やる	1.22	5	連携する	1.41	4	聞く	0.93	4

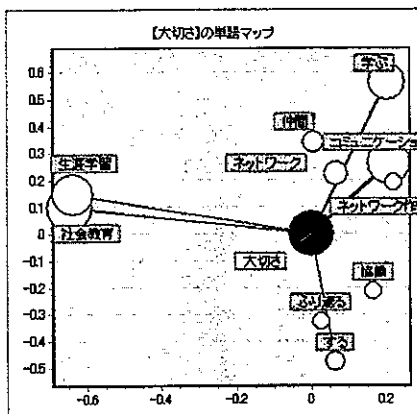
【表3-1-3】「学んだこと気づいたこと」単語ランキング(動詞)

(2) 単語マップ

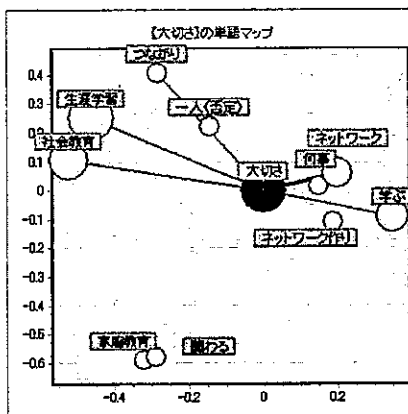
切さ」「地域」「学ぶ」について単語マップに表し、傾向を分析してみる。

単語ランキングの上位にランクされたもののうち、「大

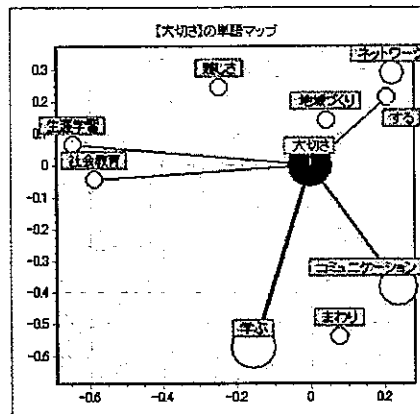
① 「大切さ」の単語マップ【図3-1-1】【図3-1-2】【図3-1-3】【図3-1-4】【図3-1-5】



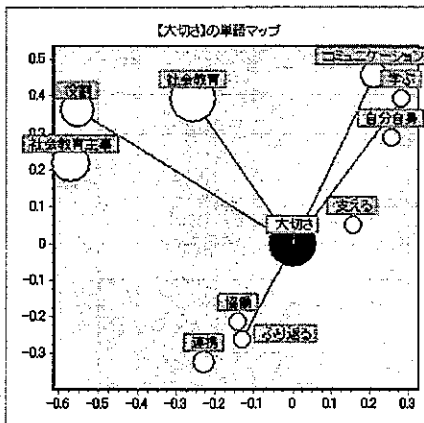
【図3-1-1】全体 (227件)



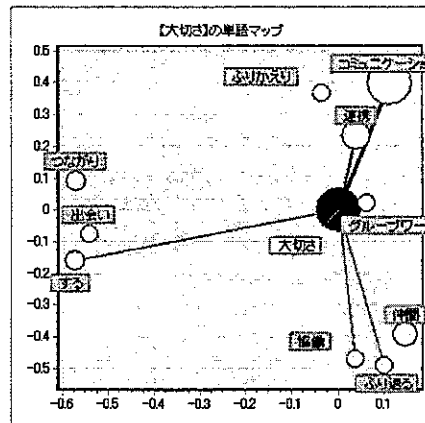
【図3-1-2】平成14年度 (54件)



【図3-1-3】平成15年度 (63件)



【図3-1-4】平成18年度（51件）



【図3-1-5】平成19年度（59件）

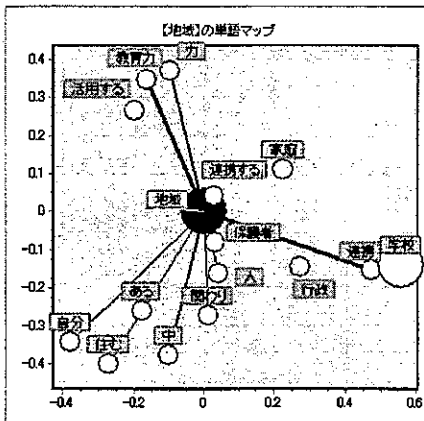
「〇〇の大切さを学んだ」という文章が多く、係り受けでは〇〇に相当するものが多く見られる。

講習の中で繰り返し聞いたりまとめたりした中で、学んだこと、気づいたことが単語マップの中に表れている。単語マップ内にある単語によって講習内容の若干の差を

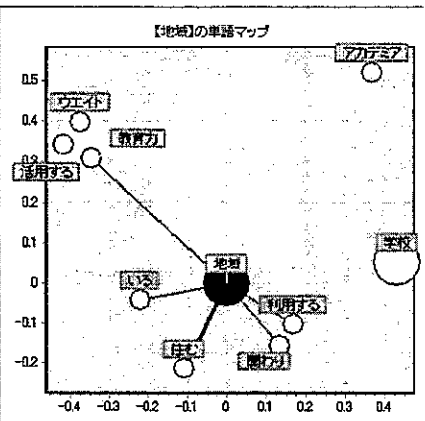
見ることができる。

平成19年度を除き、「学ぶ」との係り結びが多く見られる。平成19年度のふりかえりシートの様式が異なることもこのような傾向になったことと関係があるようである。

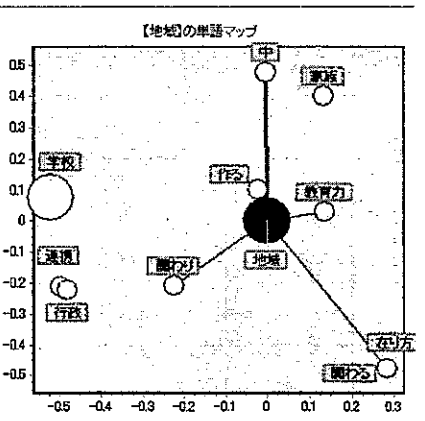
②「地域」の単語マップ【図3-1-6】【図3-1-7】【図3-1-8】【図3-1-9】【図3-1-10】



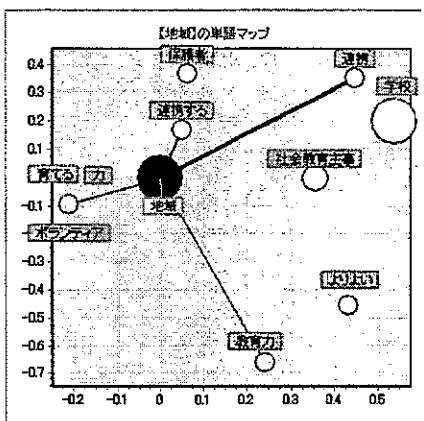
【図3-1-6】全体（158件）



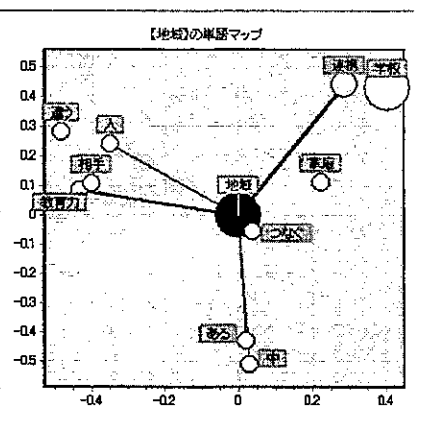
【図3-1-7】平成14年度（22件）



【図3-1-8】平成15年度（46件）



【図3-1-9】平成18年度（31件）



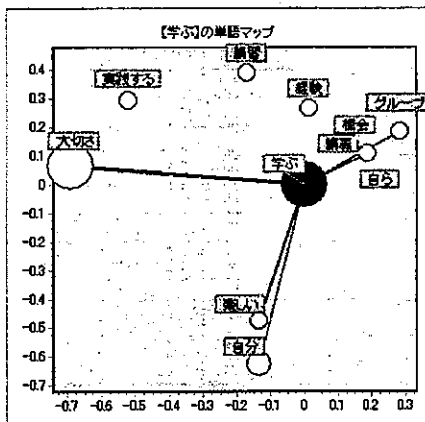
【図3-1-10】平成19年度（59件）

「地域との〇〇」「地域の〇〇」等が含まれる文章が多く、係り受けでは〇〇に相当するものが多く見られる。「地域との連携」「地域の教育力」等、地域を中心とし

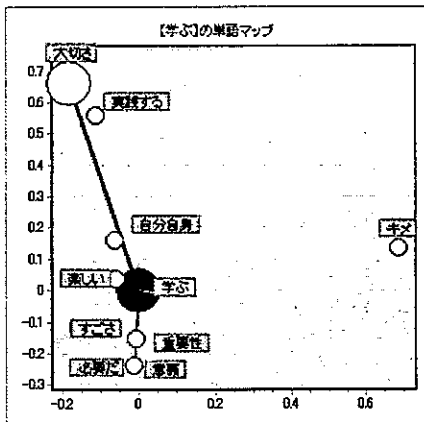
た内容を多く学んだことが単語マップから読み取れる。講習を通し、自分の住む地域のすばらしさや、逆に危機感に気づいた文章も見られた。

講習、特に演習の内容が、学校と地域との連携を意識する。
 されたものであることが十分に表れた結果となってい

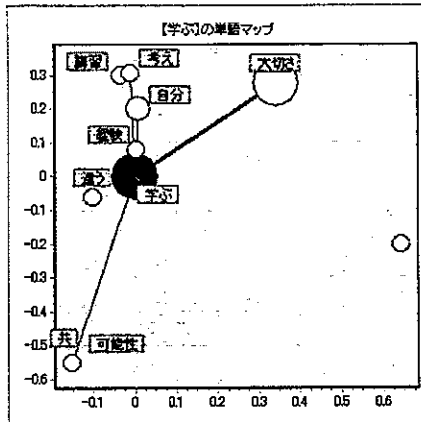
③「学ぶ」の単語マップ【図3-1-11】【図3-1-12】【図3-1-13】【図3-1-14】【図3-1-15】



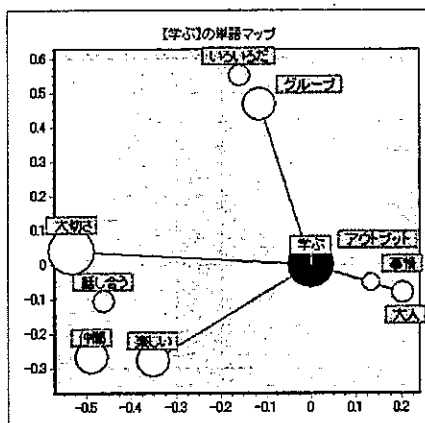
【図3-1-11】 全体 (115件)



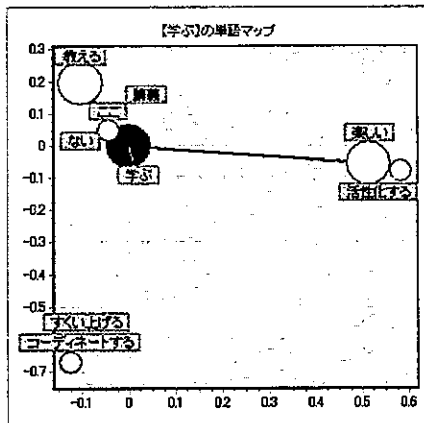
【図3-1-12】 平成14年度 (36件)



【図3-1-13】 平成15年度 (34件)



【図3-1-14】 平成18年度 (26件)



【図3-1-15】 平成19年度 (19件)

何を「学んだ」というだけでなく、どのように「学んだ」という点が単語マップに表れている。「共に学ぶ」「楽しく学ぶ」「グループで学ぶ」等、どのような学び方が効果があるのかを読み取れる結果となった。

①「大切さ」の単語マップ (P.10) と同様に、平成19年度のみ傾向が異なっている。

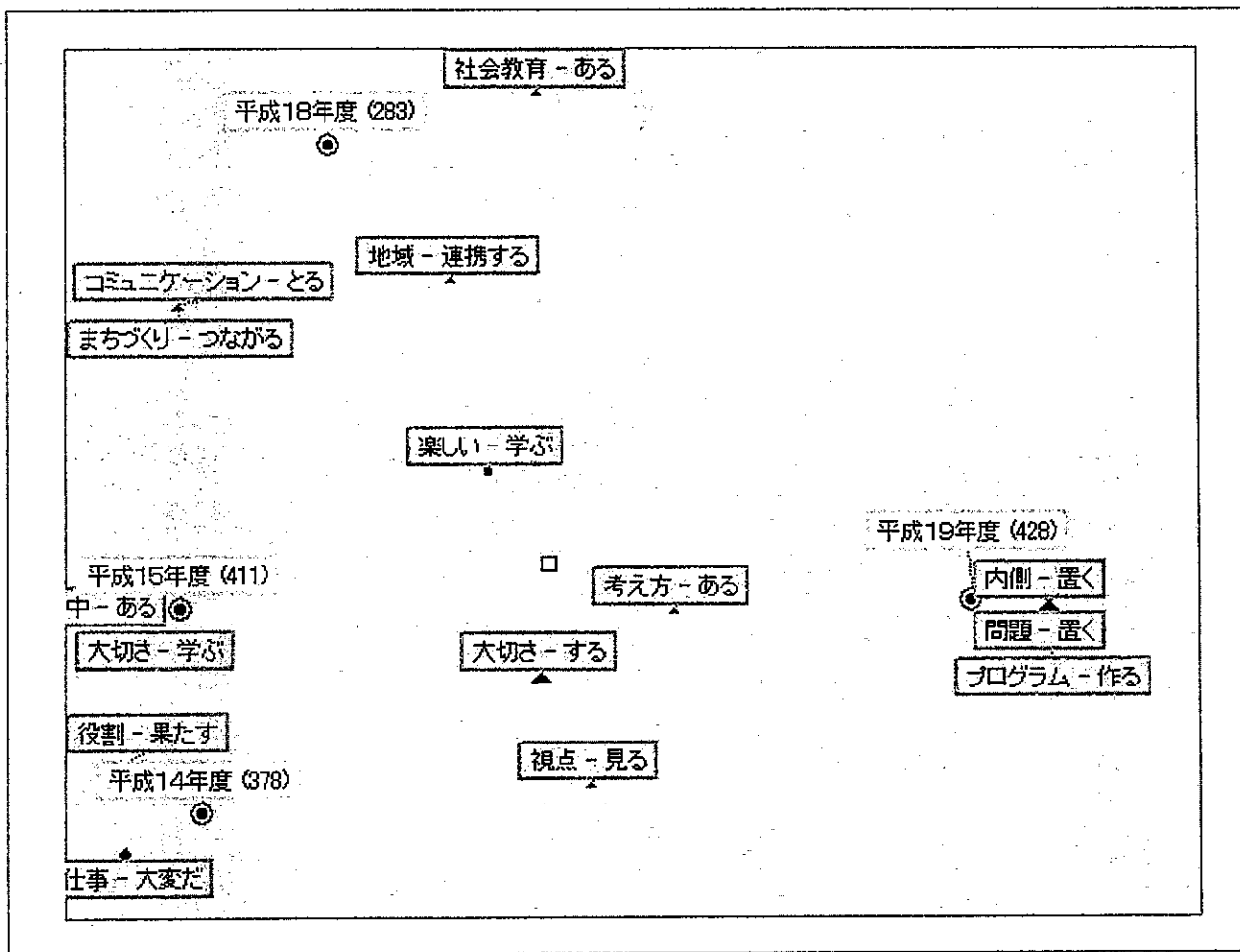
(3) マッピング

年度ごとの違いを違う角度から把握するために、マッピングで解析した図を示す。

【図3-1-16】は年度ごとのキーワード(単語)のマッピングである。単語の場合、それぞれの年度(●)の部

分)が近い位置にあり、講習内容と受講者自身が学んだこと気づいたことが毎年ほぼ同じと言える。

特徴的な傾向として平成19年度があり、他の3つの年度とは若干ずれている。専任講師である廣瀬隆人教授が何度も口にしてきた「問題を自分の内側に置く」を記入した受講生が多数いたため、「問題」「置く」が他の3年間とは違う方向にプロットされている。



【図3-1-17】年度ごとのキーワード（係り受け）のマッピング

(4) 小考察

単語ランキング、単語マップ、マッピングの分析の結果から、推察できることは以下のとおりである。

- ①学んだこと、気づいたことは年度によって大きな相違はないが、それぞれの年度で特徴的なものがあり、講習の中で多くの受講生に印象深く残るものが書かれたと思われる。
- ②社会や学校を取り巻く環境が変化している中、講習

で話される内容も変化し、それが特徴的な結果となって出現していると思われる。

- ③平成19年度はふりかえりシートの様式が異なるため、他の3つの年度とは違った傾向になっている。平成19年度は具体的に書きやすい様式であるため、多くの文章を書こうという気持ちにさせることができたと思われる。

第2節 「これから実行したいこと」の分析

(1) 単語ランキングからみた傾向

本章第1節と同様に名詞、形容詞、動詞の上位20位までを載せたものが【表3-2-1】【表3-2-2】【表3-2-3】である。

年度ごとにランキングを見てみると、名詞ではどの年

度も「地域」「自分」「学校」が圧倒的に多く見られる。

「自分」が出てくる文章をよく見ると、「自分の住む地域～」「自分の学校～」「自分の担当する仕事～」といったものが主であるので、次の単語マップでは、「地域」「学校」を分析する。

	全体	割合(%)	件数	平成14年度	割合(%)	件数	平成15年度	割合(%)	件数
1	地域	19.12	299	地域	16.95	59	地域	19.72	71
2	自分	11.13	174	自分	9.77	34	自分	11.67	42
3	学校	8.95	140	学校	9.48	33	学校	10.83	39
4	人	6.52	102	ワークショップ	6.61	23	今	6.67	24
5	講習	4.28	67	学習	6.03	21	講習	6.39	23
6	連携	4.09	64	講習	5.75	20	授業	5.56	20
7	授業	4.03	63	仕事	5.17	18	人	5.56	20
8	今	3.96	62	授業	5.17	18	活動	4.44	16
9	大切さ	3.64	57	今	4.60	16	社会教育	4.44	16
10	コミュニケーション	3.52	55	活動	4.31	15	中	4.17	15
11	学習	3.52	55	今回	4.31	15	コミュニケーション	3.89	14
12	活動	3.52	55	講座	4.02	14	連携	3.89	14
13	仕事	3.52	55	生涯学習	3.74	13	ポストイット	3.33	12
14	社会教育	3.52	55	中	3.74	13	仕事	3.33	12
15	保護者	3.01	47	方法	3.74	13	生徒	3.33	12
16	職場	2.62	41	まちづくり	3.45	12	子ども達	3.06	11
17	ボランティア	2.56	40	人	3.45	12	学習	2.78	10
18	中	2.56	40	連携	3.45	12	研修	2.78	10
19	生涯学習	2.43	38	ネットワーク	3.16	11	人たち	2.78	10
20	子ども	2.30	36	子どもたち	2.87	10	今回	2.50	9

	平成18年度	割合(%)	件数	平成19年度	割合(%)	件数
1	地域	19.50	55	地域	19.86	114
2	自分	11.35	32	自分	11.50	66
3	学校	8.87	25	人	9.41	54
4	講習	6.74	19	学校	7.49	43
5	保護者	6.74	19	大切さ	6.62	38
6	今	5.67	16	コミュニケーション	5.05	29
7	人	5.67	16	ボランティア	4.88	28
8	仕事	5.32	15	内側	4.70	27
9	子どもたち	4.96	14	連携	4.53	26
10	連携	4.26	12	問題	4.36	25
11	ふりかえり	3.90	11	学校支援ボラン	4.18	24
12	子ども	3.90	11	社会教育	3.48	20
13	コミュニケーション	3.55	10	学習	3.14	18
14	職場	3.55	10	授業	2.79	16
15	話	3.55	10	保護者	2.79	16
16	活動	3.19	9	活動	2.61	15
17	社会教育	3.19	9	子ども	2.61	15
18	授業	3.19	9	つながり	2.44	14
19	大切さ	3.19	9	職場	2.26	13
20	同僚	3.19	9	力	2.09	12

【表3-2-1】「これから実行したいこと」(年度別) 単語ランキング (名詞)

形容詞では、「積極的だ」が圧倒的に多く、毎年1位 たいのかを分析する。
 である。次の単語マップでは、何を「積極的に」実行し

	全体	割合(%)	件数	平成14年度	割合(%)	件数	平成15年度	割合(%)	件数
1	積極的だ	3.01	47	積極的だ	2.30	8	もう一度	1.67	6
2	楽しい	1.02	16	総合的だ	2.30	8	積極的だ	1.67	6
3	仲良く	0.90	14	楽しい	1.44	5	じっくり	1.11	4
4	もう一度	0.83	13	難しい	1.44	5	小さい	1.11	4
5	総合的だ	0.83	13	多い	1.15	4	総合的だ	1.11	4
6	しっかり	0.77	12	しっかり	0.86	3	いろいろだ	0.83	3
7	いろいろだ	0.70	11	じっくり	0.86	3	しっかり	0.83	3
8	じっくり	0.70	11	小さい	0.86	3	よい	0.83	3
9	よい	0.64	10	いろいろだ	0.57	2	楽しい	0.83	3
10	ない	0.51	8	おもしろい	0.57	2	こつこつ	0.56	2
11	何か	0.51	8	ない	0.57	2	ない	0.56	2
12	小さい	0.51	8	もう一度	0.57	2	はっきり	0.56	2
13	新しい	0.51	8	何か	0.57	2	何か	0.56	2
14	前向きだ	0.51	8	強い	0.57	2	活発だ	0.56	2
15	多い	0.51	8	自然だ	0.57	2	広い	0.56	2
16	必要だ	0.51	8	上手だ	0.57	2	上手だ	0.56	2
17	広い	0.45	7	全て	0.57	2	深い	0.56	2
18	上手だ	0.45	7	太い	0.57	2	身近だ	0.56	2
19	様々だ	0.45	7	様々だ	0.57	2	前向きだ	0.56	2
20	どんどん	0.38	6	いい	0.29	1	多い	0.56	2

	平成18年度	割合(%)	件数	平成19年度	割合(%)	件数
1	積極的だ	2.84	8	積極的だ	4.36	25
2	もう一度	1.42	4	仲良く	2.09	12
3	いろいろだ	1.06	3	新しい	1.05	6
4	よい	1.06	3	必要だ	1.05	6
5	楽しい	1.06	3	楽しい	0.87	5
6	元気だ	1.06	3	広い	0.87	5
7	前向きだ	1.06	3	しっかり	0.70	4
8	良質だ	1.06	3	どんどん	0.70	4
9	いい	0.71	2	何か	0.70	4
10	しっかり	0.71	2	いろいろだ	0.52	3
11	じっくり	0.71	2	ひとりよがりだ	0.52	3
12	どのようだ	0.71	2	よい	0.52	3
13	ない	0.71	2	高い	0.52	3
14	ポジティブだ	0.71	2	サラサラ	0.35	2
15	仲良く	0.71	2	じっくり	0.35	2
16	明るい	0.71	2	ない	0.35	2
17	いけない	0.35	1	具体的だ	0.35	2
18	いやだ	0.35	1	上手だ	0.35	2
19	たいへんだ	0.35	1	心配だ	0.35	2
20	ちょこちょこ	0.35	1	前向きだ	0.35	2

【表3-2-2】「これから実行したいこと」(年度別) 単語ランキング (形容詞)

動詞では、「思う」「学ぶ」「考える」が上位にランクされている。「思う」は控えめに記述する際に使用され

ることが多いので、次の単語マップでは、「学ぶ」「考える」を分析する。

	全体	割合(%)	件数	平成14年度	割合(%)	件数	平成15年度	割合(%)	件数
1	思う	8.31	130	思う	14.08	49	思う	11.94	43
2	学ぶ	7.99	125	学ぶ	11.21	39	学ぶ	10.56	38
3	考える	5.43	85	考える	6.90	24	する	6.11	22
4	する	4.16	65	生かす	4.89	17	やる	5.83	21
5	やる	3.52	55	参加する	3.45	12	考える	5.83	21
6	生かす	3.20	50	住む	3.45	12	生かす	5.00	18
7	参加する	2.88	45	する	3.16	11	使う	3.06	11
8	できる	2.69	42	作る	2.87	10	持つ	3.06	11
9	作る	2.56	40	使う	2.87	10	取り入れる	3.06	11
10	持つ	2.43	38	実行する	2.87	10	できる	2.78	10
11	ある	2.37	37	取り入れる	2.87	10	行う	2.78	10
12	使う	2.37	37	やる	2.59	9	とる	2.50	9
13	取り入れる	2.17	34	ある	2.30	8	関わる	2.50	9
14	伝える	2.11	33	たまる	2.01	7	見直す	2.50	9
15	住む	1.92	30	できる	2.01	7	実践する	2.50	9
16	関わる	1.85	29	広げる	2.01	7	ある	2.22	8
17	行う	1.73	27	実践する	2.01	7	住む	2.22	8
18	話す	1.53	24	変える	2.01	7	伝える	2.22	8
19	実践する	1.47	23	関わる	1.72	6	作る	1.94	7
20	接する	1.41	22	行う	1.72	6	接する	1.94	7

	平成18年度	割合(%)	件数	平成19年度	割合(%)	件数
1	思う	10.64	30	学ぶ	4.36	25
2	学ぶ	8.16	23	考える	4.36	25
3	できる	5.32	15	する	4.01	23
4	考える	5.32	15	やる	3.48	20
5	参加する	4.26	12	作る	2.79	16
6	伝える	3.90	11	参加する	2.79	16
7	する	3.19	9	持つ	2.79	16
8	接する	3.19	9	置く	2.79	16
9	生かす	2.84	8	ある	2.44	14
10	ある	2.48	7	話す	2.44	14
11	作る	2.48	7	進む	2.09	12
12	使う	2.48	7	おく	1.92	11
13	取り組む	2.48	7	見る	1.92	11
14	増やす	2.48	7	伝える	1.92	11
15	話す	2.48	7	できる	1.74	10
16	いる	2.13	6	使う	1.57	9
17	関わる	2.13	6	取り入れる	1.57	9
18	持つ	2.13	6	関わる	1.39	8
19	出す	2.13	6	思う	1.39	8
20	やる	1.77	5	楽しむ	1.22	7

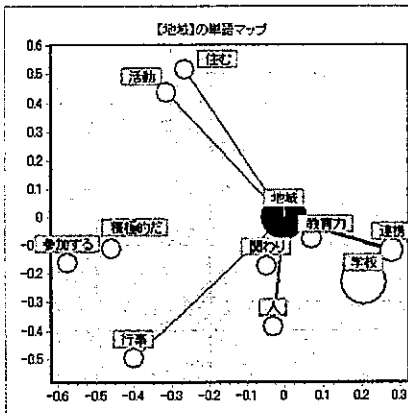
【表3-2-3】「これから実行したいこと」(年度別) 単語ランキング (動詞)

(2) 単語マップ

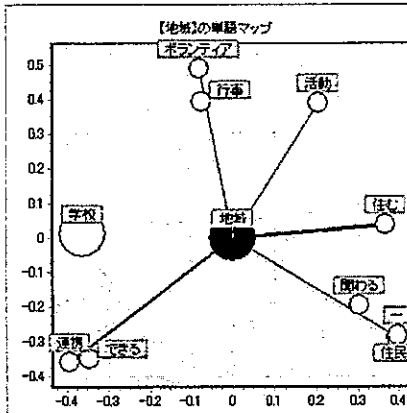
校「積極的だ」「学ぶ」「考える」について単語マップ

単語ランキングの上位にランクされた、「地域」「学」に表し、傾向を分析してみる。

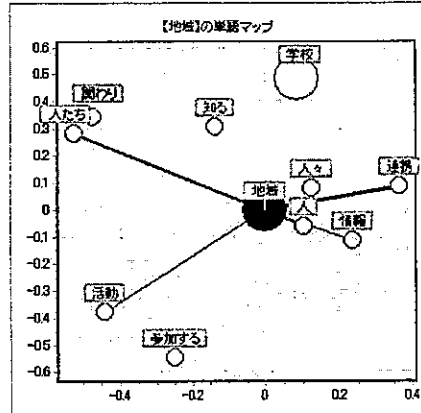
① 「地域」の単語マップ【図3-2-1】【図3-2-2】【図3-2-3】【図3-2-4】【図3-2-5】



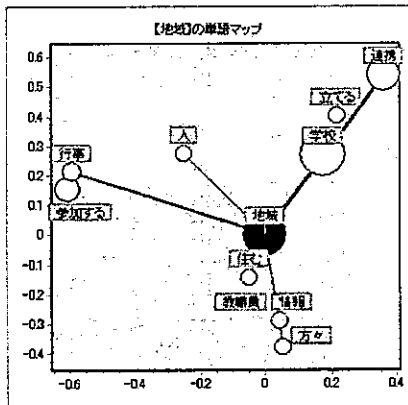
【図3-2-1】全体 (299件)



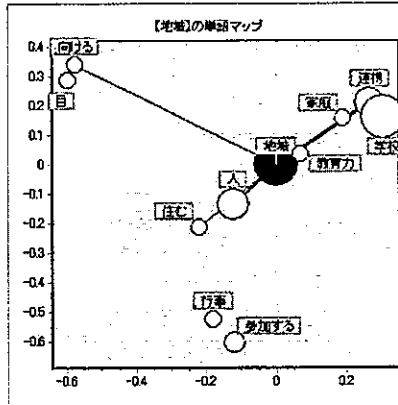
【図3-2-2】平成14年度 (59件)



【図3-2-3】平成15年度 (71件)



【図3-2-4】平成18年度 (55件)

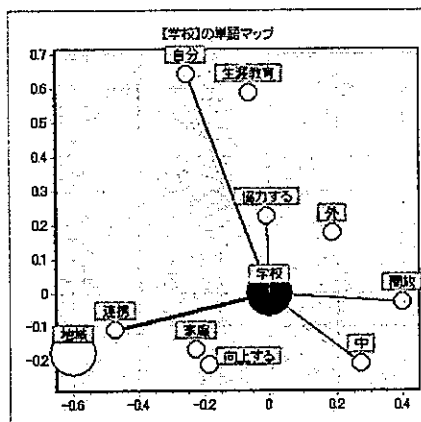


【図3-2-5】平成19年度 (114件)

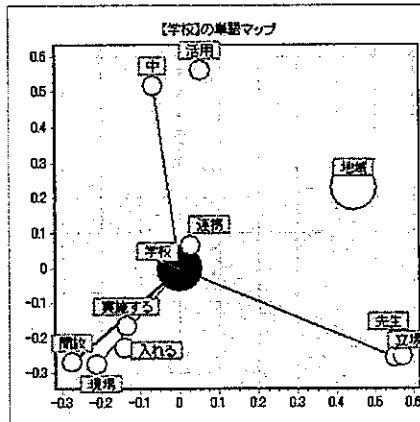
「地域の行事」「地域の人々」「地域に目を向ける」など学校や自分の住む地域を意識した文章が多く見られる。そして自分が地域と関わることによって「地域の教育力」を高めたいという前向きな文章が多く見られる。

前節(2)②「地域」の単語マップ(P.11)で述べたことと重複するが、ここでも講習、特に演習の内容が、学校と地域の連携を意識されたものであることが十分に表れた結果となっている。

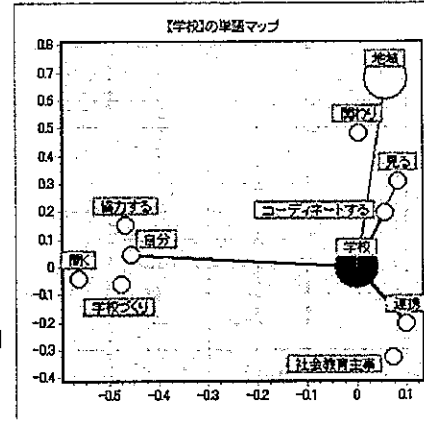
② 「学校」の単語マップ【図3-2-6】【図3-2-7】【図3-2-8】【図3-2-9】【図3-2-10】



【図3-2-6】全体 (140件)



【図3-2-7】平成14年度 (33件)



【図3-2-8】平成15年度 (39件)

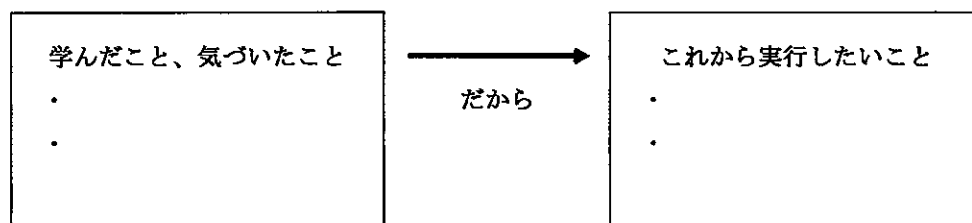
まとめにかえて

第3章の小考察で記述したことを表にまとめて再掲する。

学んだこと、気づいたこと	これから実行したいこと
<p>①学んだこと、気づいたことは年度によって大きな相違はないが、それぞれの年度で特徴的なものがあり、講習の中で多くの受講生に印象深く残るものが書かれたと思われる。</p> <p>②社会や学校を取り巻く環境が変化している中、講習で話される内容も変化し、それが特徴的な結果となって出現していると思われる。</p> <p>③平成19年度はふりかえりシートの様式が異なるため、他の3つの年度とは違った傾向になっている。平成19年度は具体的に書きやすい様式であるため、多くの文章を書こうという気持ちにさせることができたと思われる。</p>	<p>①講習、特に演習が学校と地域の連携を意識されたものであるため、学校のある地域や自分の住む地域と積極的に関わる、地域の教育力を高めたい、といった前向きな気持ちが文章に表れたと思われる。</p> <p>②同時に、社会教育主事有資格者として学校と地域を積極的につなぐ（コーディネートする）役割を担いたいという前向きな気持ちが文章に表れたものと思われる。</p> <p>③「学んだこと、気づいたこと」と同様に、平成19年度の様式が異なるので違った傾向になっている。しかし、どの年度においても具体的に何をしたいのかがはっきりと表れていない結果であった。ふりかえりシートの設問を工夫することにより、受講生のこれから実行したいことをもっと引き出せたと思われる。</p>

上記の考察から、ふりかえりシートを記入する際に、「学んだこと、気づいたこと」を受けて「これから実行したいこと」を無意識に書いていたと推測される。多く

の受講生が無意識に下の図のようなふりかえりをしていたと推測される。



平成19年度のふりかえりシートでは、「私が学んだ5つのことは」「今後の新たな自分への5つの指針」という設問であった。“5つ”と指定されることにより、“具体的に”と指定されていなくても具体的に考えて記述することができたと思われる。特に、「これから実行したいこと」の分析では、平成19年度の受講生の記述が圧倒的に多いものであった。他の3つの年度はこれから実行したいことの記述が少なく、さらに曖昧な記述が多く見られた。ほんの少しの変更であるが、ふりかえりの結果に差が出る結果となった。

ふりかえりシートの設問の順番が影響があったかどうかは、この分析からは得られなく不確かである。今回の

分析では使用しなかったが、ふりかえりシートには「私が驚いたことは」、「グループの仲間に言いたいことは」などの設問もあった。簡単に書けそうな部分があることにより、主催者側が知りたい部分を書けるきっかけにもなっていると思われる。気軽に書けそうな部分の必要性もあるのではないだろうか。

ふりかえりシートを記入する時間については正確な記録が残っていない。時間やその時の天候、場の雰囲気なども結果は左右されるはずである。今回の分析にはその点は考慮されていないことをお断りしておく。

本研究では、テキストマイニング手法による結果として、概括的に、「学んだことを生かして今後いろいろ実

行したい」というふりかえりの思考に至っている一端を見ることができた。学んだことを学んだだけで終わらせることなく、今後どうしたらよいか、自分はどうかありたいのか、そのためには何をしたらよいか、というところまで考えることがふりかえりである。これからも社会教育主事講習で身に付けたふりかえりの思考方法は、学校や行政の現場だけでなく、大人の学びの場において大いに発揮されることと考える。

一注・参考文献等一

- (1) 伊藤俊夫他編集『新社会教育事典』、昭和58（1983）年、第一法規出版 485頁～489頁
- (2) 栃木県教育委員会『地域の生涯学習社会の形成をめざす学社連携・融合の在り方について』、平成8年、59頁～60頁
- (3) 栃木県教育委員会『ふれあい学習推進資料Ⅱ 家庭と地域の教育力活性化方策～豊かな心を持った子どもの育成を目指して～』、6頁
- (4) 栃木県教育史編さん委員会編集、栃木県連合教育会会長 梅沢 茂発行『新版 栃木県教育史 下巻・戦後史編』、1990（平成2）年1月、949頁
- (5) 栃木県教育委員会『栃木県教育振興長期ビジョン』、1984（昭和59）年12月、42頁
- (6) 栃木県教育委員会『教育振興長期ビジョン策定のための資料』、1982（昭和57）年7月、38頁～42頁
- (7) 栃木県教育委員会『教育行政の諸問題と今後の方策（10）一県議会における質疑応答のまとめ一』、1986（昭和61）年5月、51頁～52頁
- (8) 栃木県『とちぎ新時代創造計画="北関東の時代"への飛翔=』、1986（昭和61）年2月、60頁～61頁
- (9) 栃木県『とちぎ新時代創造計画のあらまし』、1986（昭和61）年2月、10頁～11頁
- (10) 栃木県総合教育センター、宇都宮大学生涯学習教育研究センター『平成18年度社会教育主事有資格教員の活動に関する調査研究』、2007（平成19）年3月、48頁～49頁
- (11) 宇都宮大学生涯学習教育研究センター編集・発行『平成14年度社会教育主事講習 受講の手引き・講義要項』、2002（平成14）年7月
- (12) 宇都宮大学生涯学習教育研究センター編集・発行『平成15年度社会教育主事講習 受講の手引き・講

義要項』、2003（平成15）年7月

- (13) 宇都宮大学生涯学習教育研究センター編集・発行『平成18年度社会教育主事講習 受講の手引き・講義要項』、2006（平成18）年7月
- (14) 宇都宮大学生涯学習教育研究センター編集・発行『平成19年度社会教育主事講習 受講の手引き・講義要項』、2007（平成19）年7月
- (15) (株) 野村総合研究所『TRUETELLER® テキストマイニングVer.5.0 ベースシステム リファレンスガイド』、2006（平成18）年1月
- (16) 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター編集・発行『平成18年度社会教育指導者の育成・資質向上のための調査研究事業「参加体験学習に関する調査研究報告書」』、2007（平成19）年4月、61頁～68頁

謝辞

このたび、2007（平成19）年度の内地留学の機会をいただき、大変整った環境・設備、そして数多い社会教育関係の文献・資料のある宇都宮大学生涯学習教育研究センターで1年にわたる研究活動に取り組んで参りました。本研究を進めるにあたり、指導教官で同センター教授の廣瀬隆人先生には、大変お忙しい中、研究に関する様々な情報や資料・文献を紹介いただきました。学外研修や夏に実施された2007（平成19）年度社会教育主事講習では、各方面で活躍されている方々を御紹介いただき、社会教育に関するお話をさせていただくなど、課題研究以外でも多くの御配慮をいただきました。大人の学びの特質についての話や人権感覚を大切にするという人権教育の話は、今後の教員生活を送るにあたり肝に銘じたいものであります。充実した1年間を送ることができたのは先生のおかげだと強く思っています。心より深く感謝申し上げます。

同センター准教授の佐々木英和先生には、多くの学びの機会をいただきました。大学院のゼミ、学部の授業、公開講座等に参加させていただきました。先生の情熱あふれる御指導からエネルギーをいただくことができましたことに大変感謝いたしております。

同センター長の塚本純先生には、内留生室に立ち寄られた際にお気遣いと温かな励ましの言葉を幾度もかけていただきました。充実した研究ができるようにとの先生の様々な御配慮に対し御礼申し上げます。

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター社会教育調査官の上田裕司先生には、全国の社会教育主事講習データ等の問い合わせに対して、迅速に対応していただきました。深く感謝申し上げます。

栃木県教育委員会生涯学習課社会教育主事の黒崎照史先生には、社会教育主事全校配置についての質問に対して的確な文献を与えてくださいました。心より感謝申し上げます。

栃木県総合教育センター生涯学習部長の津浦幸夫先生をはじめ関係の先生方には、栃木県社会教育主事講習受講者数の調査、また、生涯学習関連の研修などで大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。

各教育事務所ふれあい学習課の課長様をはじめ、社会教育主事の先生方には、研修や社会教育主事講習の際に大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

宇都宮大学生涯学習教育研究センターの一昨年度の内地留学生で、本年度科目等履修生の大林浩先生にはデータの入力に御協力をいただきました。ありがとうございました。

同センター研究生の海老澤康雄先生、吉原雄一先生には、前期半年という短い期間ではありましたが、大学院のゼミ、学部の授業、公開講座、学外研修、そして、研究生活全般において大変お世話になりました。お二人が

いてくださったことで安心して大学に通うことができました。また、今回の研究報告に使用したデータの入力はお二人がいてくださったからこそ完了したと思っています。本当にありがとうございました。

同センター研究生の手塚孝一先生、安武裕一先生には、後期半年という短い期間ではありましたが、学部の授業、公開講座、学外研修、そして、研究生活全般において大変お世話になりました。お二人がいてくださったことで公私ともに充実した日々を送ることができました。本研究の校正作業の際には、細かな点まで指摘していただき大変助かりました。本当にありがとうございました。

この1年間にお世話になった同センターの関係者の皆様、関係学部生・大学院生の皆さん、そして、研究に際し御助言をいただきました多くの自治体関係者の皆様の御厚情に深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、内地留学という貴重な経験と時間を与えていただきました、栃木県教育委員会、ならびに内地留学中温かく御支援いただきました栃木県立富屋養護学校長関口伸一先生をはじめ、同校の教職員の皆様方に心より感謝し、御礼申し上げます。

2008（平成20）年3月